

第 10 表 府 県 別 民 有 地

本表は全国の各市町村保管の土地台帳または土地補充課税台帳に登録された土地のうち、課税の対象となる土地にかんする1月1日現在の数字である。したがって非課税地は含まない。

府 県	総 数	田	畑	宅 地	山 林	牧 場	原 野	塩 田
昭 和 27 年	14 768 335	3 012 732	2 657 376	513 783	7 135 128	...	1 445 097	4 219
昭 和 28 年	14 874 955	3 011 461	2 659 401	515 016	7 070 596	162 731	1 451 672	4 079
北 海 道	2 487 084	157 117	637 633	23 819	869 299	150 148	649 069	-
青 森 県	308 978	69 052	66 593	8 897	96 306	1 398	66 744	-
岩 手 県	631 359	63 853	79 131	10 807	374 669	3 516	99 383	-
宮 城 県	271 071	97 434	41 820	11 026	110 254	26	10 458	53
秋 田 県	263 984	108 517	27 716	9 591	73 532	27	44 600	-
山 形 県	307 138	93 496	39 496	9 715	136 603	-	27 828	-
福 茨 県	497 163	101 189	88 234	12 786	262 917	31	32 007	-
	399 023	94 066	127 769	20 173	141 813	-	15 203	-
栃 木 県	333 310	75 984	70 625	13 728	158 333	1 666	12 975	-
群 馬 県	261 118	34 674	84 901	12 021	107 459	1 336	20 727	-
埼 玉 県	243 964	66 991	93 481	19 024	59 861	-	4 607	-
埼 玉 県	344 713	102 937	85 791	18 989	117 986	1 607	17 404	-
東 奈 京 県	110 643	8 734	34 353	29 134	35 706	2	2 715	-
神 奈 川 県	138 668	19 561	44 926	15 813	51 440	354	6 575	-
新 潟 県	471 075	177 121	58 193	17 316	201 664	-	16 781	-
富 山 県	145 266	77 459	11 752	6 993	46 447	-	2 616	-
石 川 県	158 612	53 239	16 751	5 934	79 059	-	3 602	28
福 山 県	173 813	47 450	10 235	5 128	108 470	67	2 462	-
山 梨 県	123 945	18 956	33 095	4 839	54 402	-	12 655	-
山 梨 県	422 413	76 306	94 132	14 058	143 790	2 003	92 125	-
岐 静 愛 三 県	475 922	65 066	35 693	9 679	355 226	6	10 252	-
	422 657	57 877	71 245	14 804	253 323	-	25 407	-
	265 485	90 757	57 808	23 082	90 491	-	3 347	-
	281 853	70 255	29 441	9 272	169 530	-	3 355	-
滋 京 県	169 980	58 988	8 281	6 347	92 827	-	3 536	-
	164 673	41 183	15 840	8 509	97 178	-	1 963	-
大 阪 府	88 548	41 455	9 374	16 716	20 248	-	755	-
兵 奈 和 鳥 歌 県	420 016	101 750	19 975	17 615	273 026	12	6 896	744
	148 210	30 185	9 529	3 882	100 467	-	4 147	-
	265 160	26 920	15 803	4 465	216 788	-	1 185	-
	142 250	33 089	15 681	3 807	60 794	154	28 725	-
島 岡 広 山 県	411 330	53 182	26 381	5 434	323 010	14	3 309	-
	327 541	85 717	32 596	10 431	193 722	78	4 600	397
	444 609	72 580	31 431	10 589	326 884	1	2 699	424
	283 649	70 530	22 641	9 947	174 703	-	5 343	485
徳 香 愛 高 県	209 371	27 520	23 518	4 738	152 528	-	702	365
	105 415	37 699	12 307	5 455	48 658	-	195	1 100
	286 380	43 661	46 054	7 239	187 618	0	1 536	272
	330 053	34 062	49 769	3 630	240 083	-	2 509	-
福 佐 長 饒 県	257 206	105 914	32 486	18 948	73 271	3	26 538	46
	133 768	53 315	17 053	4 923	38 043	-	20 434	-
	167 589	31 791	51 905	6 689	61 041	-	16 193	-
	264 828	76 790	81 322	11 389	70 893	226	24 205	5
大 宮 鹿 児 島 県	196 463	54 545	34 702	7 434	61 705	-	37 938	140
	212 271	46 126	48 162	7 740	77 323	24	32 896	-
	306 390	56 372	113 778	12 493	81 208	45	42 474	21

第 2 章  
気 象

(注) 資料 自治庁税務部市町村課「固定資産税平均価額参考資料」。

## 第2章 気象

(1) 昭和29年1月の気象概況 昭和28年12月末の冬型気圧配置は崩れ大陸高気圧の1部はちぎれて東へ移り2日と4日には本邦南海上に低気圧が通り雨を降らせ、5日朝各地に濃霧があった。その後また移動性高気圧が来て天気は回復したが、7日には強い気圧の谷が接近し小雨があり、8日東支那海南部に低気圧が現れ北東進し、10日は日本海に入った低気圧のため雨よりの暖い気流が流れ込み日中平均気温は5度以上も高くなった。11日には大陸高気圧がはり出して来て天気回復と共に気温も一時下がったが間もなく気圧配置は崩れ、13日はまた本邦南海上に低気圧が通り雨となり、その後も高気圧が北日本に張り出し北高南低型となり、17日と20日に又南方海上を低気圧が通り一般に雨となり、大阪では14日より21日迄8日間にわたり平均気温は5度内外高い日が続いた。21日～22日は南方海上に前線が残り天気はぐづつき暖かであったが、23日朝九州の南西方に発生した低気圧が急に発達して八丈島附近に達し、関東地方に大雪を降らせて気候は急変し平年並となり、25日朝から山陰地方一帯に降り始めた雪は次第に南に移り、25日晩から26日早朝にかけて京都、大阪、奈良、和歌山地方まで前線の雪としては珍らしくかなりの積雪があった。28日には一時寒さがゆるんだが日本海北部で低気圧が発達し再び季節風が強くなり、末日まで寒い日が続いた。

(2) 昭和29年2月の気象概況 優勢な高気圧が大陸から本邦に張り出し、西高東低の冬型気圧配置が続き季節風やや強く、大阪では4、5、6日の3日間降雪があった。9日には漸く移動性高気圧となって本邦へ移り始め、10日は西日本を覆い風は弱まり大阪の最高気温は4.2度に昇った。11日は移動性高気圧が東へ去つたあと12日は日本海を発達した低気圧が通り全般に久し振りに雨が降った。13日は天候回復したが14日は南海岸沖を低気圧が通り瀬戸内海地方のみに積雪をみた。15日は晴となったが大陸の高気圧が弱く16日には又九州西方に低気圧が発生して小雨となり、其の後南海上に前線が停滞し天気悪く暖い日が続いた。19日から20日にかけて華中の高気圧が張り出して来て気温は下り天気は回復した。21日～22日は蒙古東部から強い高気圧が本邦へ張り出し、揚子江下流から移動性高気圧となって23日西日本を覆って全般に低温となり大阪地方でも氷点以下3.1度と今冬期の最低を示した。此の高気圧はゆっくり東へ移り25日漸く東の海上に去り27日には低気圧が日本海を通過したので、気温は急昇して大阪では最高23.7度に達し、2月中の新記録を作った。夜になって霧となり28日未明冷前線の通過により1時間17.5mmの大雨があった。

(3) 昭和29年3月の気象概況 1日東支那海に現われた低気圧が南海岸沖を2日にかけて全般に雨を見た。3日は晴れたが4日また九州の南西方に低気圧が現われて雨が降り、其の後南方海上に前線が残り天気ぐづつき気温は高目であった。10日は東支那海南部に低気圧が発生して天気は曇れた。11日は低気圧が九州南西沖に去り全般に雨となり、12日は低気圧が北海道附近で発達し西風やや強く気温は下り、14日には大阪で降雪をみた。その後揚子江方面から張り出して来た高気圧の範囲内において17日迄晴天が続いた。19日は高気圧が東へ移動したが、低気圧は濠洲から北海道方面へ進んだので雨は降らず、20日は寒冷前線の通過で僅かの秋雨があったのみで晴れた。21日は高気圧が東支那海に来て天気回復し27日まで本邦の低気圧がなくなり晴天が続く気温は日々上昇して、26日から最高気温20度以上となり、28日は日本海側を低気圧が通って最高気温は23.8度に達し、近畿中部の平地では桜の花が始めた。29日は寒冷前線が通り雨が降って気温は急に下り、30～31日は移動性高気圧が来て快晴となった。

(4) 昭和29年4月の気象概況 1日から4日迄は弱い高気圧の範囲内において晴天が続く、4日は高湿で大阪附近の桜は満開であった。5日朝九州西方に低気圧が現れ、6日にかけて各地に雨が降り、7日～8日は不連続線が南海上に残って曇が多かったが、9日～10日は移動性高気圧が日本海に来て快晴となり山間部では霧を見た。11日朝東支那海に低気圧が現れて北東に進み、12日日本海中部で発達し各地に風雨を起し、紀伊地方では雨量100mmを越えた処が多い。13日～14日は、高気圧が日本海に張り出し北高南低型となって曇が多かった。15日は高気圧が日本海南部に来て一帯に快晴となり、16日は又東支那海南部に低気圧が現れ北東進して、18日日本海中部で発達し全般に雨となり紀伊地方では雨量200mmに達した処があった。19日～20日は華中より高気圧が張り出して来て西の風やや強く曇となった。21日は移動性高気圧が黄海に来て近畿山間部では霧をみた。22日はこの高気圧が既に本州東海上に去り、四国沖には不連続線が出来て九州四国は雨となったが大抵は降らずに終わった。23日～25日は東方洋上から高気圧が南方海上に突出していたのでよい天気であった。25日朝東支那海中部に発生した低気圧が東進して四国沖を通過したので26日～27日に互り各地に小雨をみた。28日は大陸の高気圧が本邦の中部へ移って来たので大阪附近でも霧があった。29日は沖繩島の北方に低気圧が発生し、同日夕刻から30日朝にかけて雨となったが午後からは晴れた。

(5) 昭和29年5月の気象概況 1日と2日は本州東方洋上にある高気圧の圏内で晴、3日朝九州南西方から低気圧が南海上を通過し小雨があり、4日14時寒冷前線の通過により雷と強風が起り、5日は高気圧が本邦中部に去り快晴となり、大阪で最低気温は7.7度に降ったが高気圧の移動早く6日は九州の西方に低気圧現れ南海上を通過して7日に互り小雨、8日は高気圧に蔽われて晴、9日は濠洲から南東進して来た低気圧が日本海西部で急激に発達して各地に南西の強風を起した。10日朝日本海を通過した低気圧が北海道の北東方に去り中心示度960mbに発達して奥羽、北海道方面に大暴風雨を起した。10日から13日迄大陸から張り出した高気圧で晴天が続く、13日の最高気温は27.7度と月中高極を示した。14日は低気圧が日本海を通過して後面の前線通過で可成りの雨が降った。15日は晴、16日は高気圧の後面で高曇、17日は低気圧が四国沖を通過して小雨がありその後南海上に前線が停滞して天気はぐづつき、21日は低気圧が北九州から東進し停滞前線が東西に走って梅雨気味の天気となり23日に一時晴天もあったが、24日はまた低気圧が朝鮮海峡を経て日本海を北東進して一般に雨となり、25日は薄曇りに経過し、26日～27日は大陸高気圧の圏内でやや低温の晴、28日は四国の遙か沖を低気圧が東進し南海岸では雨となったが大抵は降らず、29日～30日は本州東方洋上から張り出した高気圧で薄曇り、31日は東海岸沖を走る停滞前線が時々小雨があった。

(6) 昭和29年6月の気象概況 1日朝東支那海南西部にあった低気圧は北東進し2日日本海に入り各地に雨を降らせた。3日は高気圧が東支那海に移動して来たので5日迄晴天が続いた。6日は上海の南方から低気圧が朝鮮南部に去り中心は992mbに発達し、7日は日本海へ進み、8日朝は房総沖へ去ったので各地に雨が降り、9日は続いて低気圧が九州南西方に接近し、10日は梅雨前線が近畿附近に横たわり典型的な梅雨気配となった。11日は九州に弱い高気圧が出来て13日迄晴天が多かった。14日は低気圧が北九州に来て一般に雨となり15日～17日は梅雨前線が南下したので曇時々晴、18日朝南海岸部に現れた低気圧は19日朝北九州に去り中心は994mbとなり各地に風雨を起したが、20日朝は房総沖と能登沖に分列したので晴間をみた。21日西日本は高気圧に蔽われて全般に晴となったが続き、22日

朝上海附近から東進して来た低気圧が急速に九州南部を通り四国南岸を経て23日朝紀南に去りその通路附近の各地では150ミリ内外の大雨があった。24日は晴れたが25日朝また揚子江下流から低気圧が東進して26日西日本の所々に分裂し、梅雨前線によって連日所々大雨があり、27日～29日は梅雨前線が南海岸を南下したり北上したりして雨の天気に経過していたが30日未明に到り前線は近畿地方の陸上に達して所々豪雨を降らせ相当の被害を見るに至った。

(7) 昭和29年7月の気象概況 1日は梅雨前線が南下して一時晴天をみたが、3日はまた前線が北上して雨勢となり、4日黄昏に発生した低気圧が東進し、5日朝朝鮮中部、6日朝能登沖に達しその中心から南西にのびた前線が近畿中国を横切り再び各地に豪雨を降らせた。7日は前線が南下して9日まで南方海上の高気圧がやや優勢となり晴天が多かったが、10日はまた前線が南海岸に沿って天気は曇れた。11日から13日まで依然梅雨前線が南海上に横たわり低温で雨勢に経過し、14日は九州南方から発達した低気圧が東進して南海岸沿いに通り、各地で50mm内外の雨を降らせ其の後20日迄は梅雨前線が南方海上に低迷して低温の梅雨空が続く特に関西14日～17日まで最低気温は連日17度台に経過した。21日は黄海中部に発達した低気圧が現れたが殆んど動かず、一方高気圧はオホーツク海にあって強く日本海と本州東方海上に於いて晴天となったが朝夕は涼しく日中の最高気温も30度に達せず28日に至り漸く最高気温30度以上になり梅雨明けの空となり、29日には前線が日本海に入り一般に南西風となり最低気温26.2度、最高35.0度という高温を示したが、30日午後雷を伴う秋雨があり31日は曇天で低温に経過した。

(8) 昭和29年8月の気象概況 1日から3日までは高気圧がオホーツク海方面より日本海に張り出し晴天であったが気温は低目に経過した。4日から10日までは本州東方洋上の優勢な高気圧が西日本に張り出しようやく夏らしい晴天が続くようになり、気温は連日上昇して平年以上となり低気圧は9日奥羽北部を通過したのみであった。前日に引き続き、北太平洋高気圧は本州から日本海に横たわり晴天高温は16日迄続いた。13日台風No.5号がラサ島附近にあり、中心示度960mbを示し、14日朝は沖繩島の東南150キロ、15日朝は沖繩島附近、16日朝は同島北方に去り中心940mbの最強となり北々東に転向し、17日朝九州の南西海上から北東に向い、18日朝九州南部に上陸、中心960mbを示し同夜四国中部を経て2分し、19日朝近畿北部に去り中心932mbに衰え、20日朝三陸沖に去った。このため大阪地方は17日の最高気温36.2度に達し、秋雨が降り総雨量は68mmに達し風の最強は台風が大阪の北東方に去った。7時南西10mであった。台風一過後また夏型好晴に戻り21日から27日迄南方洋上から高気圧が張り出して高温の晴天が続いた。28日は北海道東方の低気圧からのびた寒冷前線が西日本を通り、天気が崩れて31日迄前線が南海岸沖に横たわり、曇勢で時々秋雨をみ、また、晴天もある天気となって気温は低下した。台風No.7号は22日カロリン群島の北方に発生し、北西進して26日黄海西部で弱くなり、次いでNo.8号は26日ガム島の西方900キロに発生、27日は沖繩島の南方1000キロにあって示度895mbの強型となったが、西北西に進んで28日バシー海峡を過ぎ大陸に入り続いてNo.9号は30日マリアナ群島の西方海上を西進したが発達しなかった。

(9) 昭和29年9月の気象概況 1日から7日迄前線が太平洋岸沿いに横たわり曇勢で時々小雨があり3日～4日は平年より4～5度も低温となった。7日台風No.13号がアヤマ島東方に去り中心示度946mbに下がったが暴風圏は100キロ位の巨台風で同夜九州東岸を北上して8日朝山陰オキノ島附近にあり中心示度998mbに衰えた。大阪には影響なく7日は晴天となり最高気温34.3度に昇った。8日はまた雨となったが9日～10日は夏型の晴天となった。次の台風No.12号は10日朝琉球島の南西600キロにあり中心示度920mbに発達した。11日朝台風No.12号はラサ島の東南東350キロにあり、毎時15キロで北西に向い、12日朝鹿児島島の南々島550キロにあり、中心示度940mbとなり速度は変わらず13日朝は鹿児島島の南方250キロに去り進路を北に振り、同夜九州の西側を北上して日本海に抜け向北上を続けて15日朝はウラチオの北方に去った。大阪の雨は5mmにすぎず南寄の風が最大15mに達したのみで高温の夏空が続いた。次いで台風No.14号はまた琉球島の西方より北上して、18日朝は室戸岬南方350キロに去り中心示度970mbに衰え、進路を北東に転じ東海道沖より房総半島をかすめて19日三陸沖に去った。大阪では中心よりかなり遠かったので最大風速は北々東の13mで総雨量は76mmに達したが大した被害はなく、19日～20日は快晴となった。台風一過後24日迄秋晴の好天が続いたが、25日次の台風No.15号がバシー海峡の東方から進路を北東に向け石垣島附近に去り中心示度975mbに発達し其後急にスピードを倍加し、26日朝広島附近を経て、日本海を北東進し同夜既に北海道西側を通過する頃は中心示度960mbと異常な発達をなし、青森連絡船洞爺丸転覆の大惨事を起した。大阪では最大風速南々西17mに達したが雨は16mmであった。27日は台風一過の快晴となったが続き、同夜急に南海岸沖に前線発生し28日は全般に雨となり雨量60mmに達した。29日は晴、30日は又南方海上から前線が北上して天気は曇れた。

(10) 昭和29年10月の気象概況 移動性高気圧が日本海を通過して本邦の南岸沖に帯に前線が停滞しており、この前線上をしばしば低気圧が通過したので秋型の天気が多く、雨のなかった日は5、9、10で、晴天は5日、9日のみであった。11日は又前線が本邦南岸沖合に発生し曇小雨となり12日～16日は大陸から高気圧が張り出して移動性となり、本邦を通過して北海道の東へ去ったので好晴が続いた。17日は四国沖に低気圧が発生して雨となり、18日は雨後曇、19日は前線の南下により晴20日は四国沖に出来た低気圧で雨となった。21日は低気圧が八丈島の東へ去り雨後晴で22日～24日は大陸高気圧の圏内に入り晴天25日は四国沖の前線が北上して雨となり、26日以後は弱いながら大陸の高気圧が根強く西日本に張り出して前線を近づけなかったので当季節に珍しい雨のない日は11月13日迄19日間に達し秋の新レコード日数となった。

(11) 昭和29年11月の気象概況 11月上旬は高気圧の帯が次々と本邦を通過したので3日より5日にかけて台風No.19号が遼南洋上(北緯20度)を西進したるほか低気圧の発生したるものなく、10月26日以来の晴天続きは本月上旬にわたり、農家やハイキングには恵まれたが電力事情は悪化の極に近づいた。中旬に入り13日朝台湾の北方に発生した低気圧は四国沖に接近して東進し実に20日振りの雨が降った。しかし雨量は大阪で1.5mmに過ぎずまた晴天となり、19日には四国沖に生じた不連続線により13mmの雨があたり電力事情は一息入れた。下旬は21日台風No.21号のあとを追って四国沖に生じた低気圧が発達して関東の東方で大化となった。また、27日朝九州の南方に出来た1014mb低気圧が急速に発達して東海道沖を通り沿岸は暴風雨となり、富士山の大雪崩が起って登山学生14名がぎせいとされた。

(12) 昭和29年12月の気象概況 2日低気圧が日本海と四国沖を東進して大阪では16mmの雨が降り、其後大陸高気圧が張り出して来て晴れたが長続きせず、7日は東支那海に低気圧が発生して8日には18mmの雨が降り気温は高目に経過した。12日以後は大陸高気圧の圏内に入って晴天勝が続き気温は14日～18日迄平年より低目であったが、18日高気圧が本邦へ移って暖かい日となり南方海上の前線が19日には7mmの雨をみた。下旬に入るとは大陸高気圧の一退一進により晴天が続いて始めて冬期の順調となり、気温は連日低下して25～30日迄は低い日が続いた。

第 1 表 大 阪 管 区 気 象 台

本表は「大阪気象要覽」によつたものである。

位 置	経 緯 度		海面上高 米	創立年月日 年月日	主要機器位置
	東 経 度	北 緯 度			
大阪市生野区勝山通9丁目72	135.32	34.39	6.7	明治15.7.1	水銀気圧計(海面上) 8.0 温度計(地面上) 1.5 碗形風速計(地面上) 18.6 自記風圧計(地面上) 18.8 雨量計(地面上) 0.2 自記雨量計(地面上) 2.7 露場海面上の高さ 6.7

(注) 資料 大阪管区気象台。

第 2 表 大 阪 の 気 象 概 況

本表は「大阪気象要覽」によつたものである。

年 月	平均気圧 基準面 MB + 1000	気 温 (°C)			相 对 湿 度 (%)	平 均 雲 量 0~10	風 速 度			降 水 量		日照時間 総 数 (時)
		平均 (8回)	最高	最低			平均速度 (米/秒)	最强風向	最大速度	総 量 (耗)	最大時量	
平 年	15.2	15.1	19.9	10.8	74	6.0	2.7	S	29.8	1 332.4	63.8	2 188.9
全 年	15.5	15.7	20.4	11.4	72	6.5	2.8	SSW	16.9	1 689.9	41.9	2 016.1
昭和29年1月	18.3	6.0	10.0	2.3	73	7.2	2.8	W	13.9	81.2	3.2	107.8
" 2月	20.0	6.2	11.2	1.3	69	5.3	2.9	W	10.1	65.4	17.5	164.2
" 3月	20.6	8.2	13.4	2.9	66	5.1	2.7	NNW	12.5	76.9	5.8	207.1
" 4月	15.4	15.0	20.5	9.7	64	6.5	3.0	WSW	13.2	95.7	7.8	195.5
" 5月	13.1	18.4	23.2	13.7	70	7.4	2.7	WSW	13.5	163.7	21.4	189.2
" 6月	8.7	20.6	24.6	17.1	76	8.4	3.2	NE	14.7	433.2	41.9	133.3
" 7月	8.7	24.5	28.4	21.2	78	8.4	2.5	NE	9.3	319.6	26.7	152.0
" 8月	10.2	28.1	33.1	24.1	71	5.3	2.6	SW	9.6	86.2	12.9	259.5
" 9月	10.3	24.5	28.9	20.6	76	6.6	3.0	SSW	16.9	246.6	21.3	169.1
" 10月	17.9	16.4	20.8	12.3	73	7.3	2.7	N	9.4	41.0	3.3	136.0
" 11月	20.0	12.8	18.4	7.6	71	4.6	2.1	NE	9.8	34.7	5.4	174.6
" 12月	22.8	7.7	12.0	3.6	71	5.8	2.9	WSW	12.4	45.7	4.8	127.8

(注) 資料 大阪管区気象台。

気圧はm.bであらわしm.mに換算するには%をかける(例)100mb=750m.m。気温は°Cであらわし日平均値は(3.6.9.12.15.18.21.24時)の8回、最高は0~24時、最低は前日9時~当日9時の日界である。湿度は相対湿度と呼び日平均値は(9.15.21時)の3回測定したものである。雲量は0~10の目測により日平均値は(3.9.15.21時)の4回で日平均7.5以上は曇、同2.5未満は快晴日数にとる。風速はm/Sで0~24時の全程から日平均値を最强は10分平均値、風向は16方位風速0.5以下は静穏とす。降水量は前日9時~当日9時の日界、毎時の表は0~24時の日界、単位は水の溜つた深さをm.mであらわす。日照時数は真太陽時による、時以下は分数 $\frac{1}{10}$ 法による。したがつて日合計8.4は8時24分の意味である。

第 3 章

人 口